

▶ 第3章

米中摩擦でゆがむ東アジアの I T 供給網

日本経済研究センター研究員

(兼日本経済新聞社編集ビジネス報道ユニット担当部長)

山田 周平

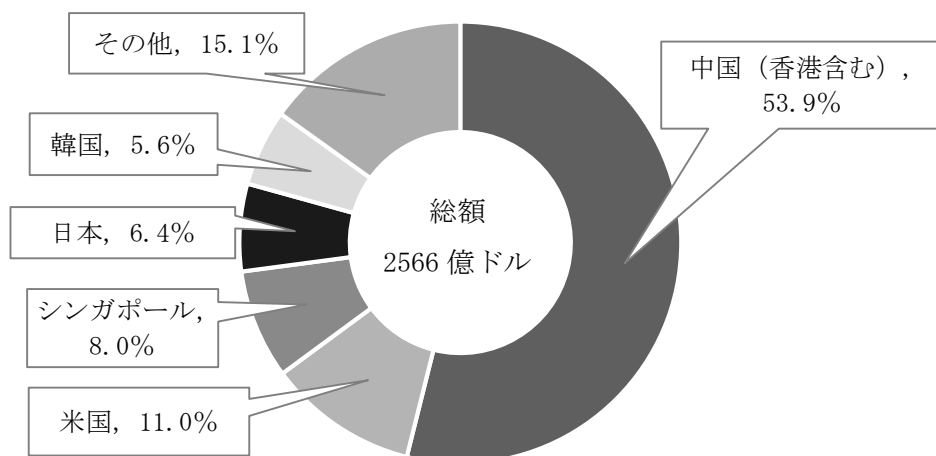
【ポイント】

- ▶ 米中ハイテク摩擦が長引くのと裏腹に、東アジアの貿易が活発化している。2021年は米中の貿易総額が過去最高を更新し、台湾からの I T (情報技術) 部品・機器の輸出も2割以上増えた。新型コロナウイルス禍によるパソコン需要の増加などで、東アジアの I T 供給網はフル回転している。
- ▶ 米中摩擦に伴い関係国・地域が実施した制裁や振興策は中国の電気自動車 (E V) 産業などの成長を加速させる一方、I T 供給網のゆがみで漁夫の利を得る企業が現れるなどの弊害を生んでいる。一連の政策は目的との整合性や公平性の観点から、再評価すべき時期を迎えている。
- ▶ 日本も経済安全保障の視点から振興策を定め、台湾メーカーの半導体工場を誘致するなど具体化が進んでいる。ただ、日本では資金力や技術力の制約から、米国や中国と I T 供給網の主役を競うのは難しい。理想論ではなく、ミクロの現実を踏まえた強化を心がける必要がある。



注目データ

台湾の I T 部品・機器の輸出先 (2021年)



資料：台湾・経済部統計処の調査より筆者作成